

## 一般演題5-1

### 高気圧酸素治療が有用であった腸管囊胞様気腫症の1例

乗松由香<sup>1)</sup> 長生浩輔<sup>1)</sup> 川口達也<sup>1)</sup> 東 幸司<sup>1)</sup>  
 長野準也<sup>1)</sup> 佐々木千世<sup>2)</sup> 村上英広<sup>2)</sup>  
 楠 勝介<sup>3)</sup>

- |                  |
|------------------|
| 1) 済生会松山病院 ME部   |
| 2) 済生会松山病院 内科    |
| 3) 済生会松山病院 脳神経外科 |

#### 【はじめに】

腸管囊胞様気腫症（以下PCI）は、腸管壁内に多発性の含気性囊胞を形成する比較的まれな疾患である。今回、PCIに対して高気圧酸素治療（以下HBO2）を行い著効であったので報告する。

#### 【症例】

78歳男性。平成28年8月より体重の減少がみられた。同年9月食欲不振や腹部膨満があり他院でPCIと診断される。大建中湯の内服加療を行うが症状は持続した。平成29年4月慢性閉塞性肺疾患（以下COPD）と続発性アミロイドーシスを指摘される。食事による腹痛があり成分栄養剤以外の食事摂取が困難であった。同年5月、症状の改善がみられないためHBO2目的にて当院へ紹介入院した。当院初診時の腹部CT画像にて小腸壁に沿った囊胞様のガス像がみられた。遊離ガスはなく上腸間膜静脈や門脈内にもガスはなかった（図1）。

#### 【経過】

2ATA, 60分間の酸素加圧を施行した。COPDのため厳重な観察の下HBO2を施行したが、治療中、治療後ともに患者状態に問題はなかった。HBO2数回施

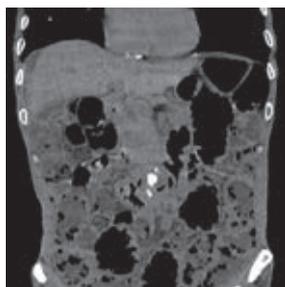


図1 治療前 腹部 CT

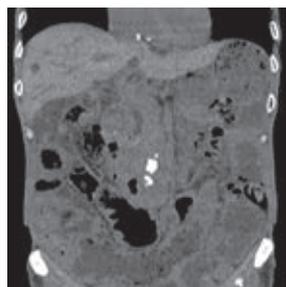


図2 治療後 腹部 CT

行後より腹部症状は軽減し、食事による腹痛や腹部膨満感の訴えもなくなり、食事摂取は良好となった。HBO2 7回目終了時には自覚症状は著明に改善していた。7回目終了後の腹部CT画像では、小腸壁のPCIは著明に減少していた（図2）。症状の改善がみられたためHBO2 7回、入院14日目に自宅に退院した。

#### 【考察】

PCIは基礎疾患を伴わず発症する症例が15%、他疾患に伴い発症する症例が85%ある。発生機序としては大きく分類し、①消化管狭窄などにより腸管内圧が亢進し生じる内圧説（機械説）、②クロストリジウム属などのガス産生菌による細菌説、③慢性肺疾患などによる呼吸器疾患説、④トリクロロエチレンの慢性暴露による化学説の4つがある。本症例は続発性アミロイドーシスから消化管へのアミロイド沈着による内圧説、及びCOPDによる呼吸器疾患説が考えられた。消化管穿孔や腸管壊死を起こしている症例においては外科的治療が必須であるが、保存的治療を行う際は気腫内ガスの90%が窒素で構成されていることを考慮すると、通常酸素吸入に比べ、HBO2を施行することで治療期間の短縮を図ることができると考えられる<sup>1,2,3)</sup>。

#### 【結語】

HBO2が有用であったPCIの1例を報告した。今後、HBO2と常圧酸素投与の比較や治療プロトコルの検討が必要と考えられる。

#### 参考文献

- 1) 吉澤寿：神経性食思不振症に合併し高圧酸素療法が奏効した腸管気腫性囊胞症の1例．日保学誌．2007；pp.116-121
- 2) 井上亨悦ら：高圧酸素療法が著効をみた腸管囊胞様気腫症の1例．日臨外会誌．2014；pp.692-695
- 3) 藤岡稔洋ら：トリクロロエチレン暴露で発症し高圧酸素療法により治癒した腸管囊胞様気腫症の1例．昭和医会誌．2000；pp.413-418